



育児休業体験記



M・Kさん

育休をとるタイミングは人それぞれで、子供の月齢や取得する期間によっても内容がだいぶかわってくると思う。私の場合はもう歩き回る月齢になっていて、離乳食もだいぶすすんでできていた。これまで、子育ては協力してきているつもりであったので、動きまわることに関しては何の不安もなかった。が、食事についてはちゃんと作れるのか、食べてくれるのかなど幾分不安はあった。

実際には子供のほうがたくましく作ったものは結構食べてくれた。まあ、ひっくり返すことも多々あったがそれは子供の仕事ということだろう。

とにかく、四六時中子供と向き合うとはどういう感じなんだろうと自分自身に対しても興味があった。結構冷静に見るのではないかなと思ったりしていたが、そんなゆっくり見る余裕はなく慌しくあ

っという間に一日がすぎていった。

大人とは違い、まだヨチヨチ歩きで自分の足で歩けることが楽し
いらしく、部屋にずっといると外にでたいアピールが始まる。そこ
で外に連れ出し一緒に外に出てみるが、私は車や道のデコボコ等を
気にしながら子供を見ているので想像以上に神経を使った。こちら
の心配などはよそにあっちにいたりこっちにいたり元気に
歩きまわってくれ、そんな中で風が吹いて落ち葉がクルリとまわっ
たりするともう大興奮。いきなり走り出して、こっちは突然の行動
に不意をつかれあわてたりした。だが、こういう事も楽しく思うの
だとわかりこっちも新鮮な気持ちにさせられたりした。動きまわっ
て外も満喫したらいい気なもので帰りには抱っこをせがみすぐに
寝て帰宅なんて事もあった。この寝ている間にこっちは洗濯や料理
をしようと頑張るも、たいていは途中で起きだし思い通りに家事は
すすまない。それどころか昼寝をしてパワーアップしてからんでく
るので、自分のコピーロボットがほしいとどれほど思ったことか。



こちらの予定通りには進まないし、休み時間などはないので疲れもだんだんたまってくるが、わが子は満面の笑みでむかってきてくれるので、それに癒され、こちらの計画などどうでもよくなる。

こんな調子で子供との時間が流れていった。

ずっと一緒にいれるということは子供が瞬間的に成長する現場に立ち会える事が増えてくる。

例えば、ついさっきまでは椅子に登れなくて泣いていたのが、私が座らせてやると、すぐに降りて今度は自分だけで登ってしまったりした。本人も自分の進歩がうれしいのか、とてもうれしそうでニコニコしているのだが、それを見ていた私もわが子の成長を目の当たりにしたという事になんともいえない喜びがこみあげてきた。子供なのだから日々成長するだろうと思ってはいたが、実際にその瞬間を見てこんなに興奮するものなのかと自分自身に驚いた。

よく仕事から戻ってきた時に、妻が「今日はこういうことができたよ」とうれしそうに報告をしてくれていたが、これまではその事

に対して私自身の中で「こういう事もできたんだね」とうれしい中にも冷静に見ていた気がする。その分、うれしい度合いに妻と温度差があったのかもしれない。しかし、子供の成長に自分自身が興奮したことで今までの妻の本当のうれしさがわかったような気がする。これまで母親がこの興奮を独り占めしていたと思うとズルイと思う。

育休をとって子育てに休みはないという事を実感し、また、子供と一緒にいる時間が長くなることで、数多くの子供の成長を目の当たりにすることができた。わずかな期間であったが子供と過ごした濃密な時間は、これからの子供の成長にいい影響があるであろう。

既に変わってきている事があり、それは、子供が私に非常になついている。それが一番の収穫であった。

職場の理解もあり、この貴重な体験ができたことに感謝したい。

